

六川長三郎勝家

立科土地改良地区理事長

六川利一先生

実施日：令和3年9月14日（火）



第11回目は、立科土地改良区理事長の六川利一先生を講師にお招きし、「六川長三郎勝家」をテーマに、六川長三郎勝家と蓼科の水についてお話しいただいた。前半は六川家のルーツについて、もとは群馬の武士であった六川家が、山梨、長野と移り住み帰農し、その後堰や新田の開発に尽力したことなどを教えていただいた。後半は、立科町の用水系統図やパンフレットを見ながら蓼科の堰や周辺地域の堰についても学んだ。六川先生の穏やかではあるが、熱く語られる姿が印象的な講義だった。

【生徒の授業日誌より】

- ・六川長三郎は92歳まで生きて、すごく長生きだと思いました。蓼仙の滝の写真がとてもきれいで、自然豊かで空気も涼しそうで、行ってみたいなと思いました。暑いときに行くと涼しそうでいいなと思いました。
- ・川から水路を伸ばすと一筋縄にはいかなくて、岩盤などを掘るとなるとその道具なども必要になり、とても時間がかかると思いました。
- ・天水を利用してため池を掘ったり、水不足を解消させようと水路を長い時間をかけて作っていてすごいと思った。三堰で水を引き、里まで水路を作って凄いと思う。水路を引いたことで、田畑を守るという考えがすばらしいと思った。もともと武士なのに、田畑のために水路を引くことに力を入れていてすごいと思った。
- ・六川長三郎については授業でやっていたので知っていたけど、今回はさらにくわしく知ることができたのでよかった。蓼科3堰についても名前は知っていたけれど、どの地域で作られたのか、なぜ作られたのかを学ぶことができた。女神湖や白樺湖が別の名前だったことにはびっくりした。
- ・前にお話バスケットの紙芝居で出てきた話が聞けました。蓼科山から村まで何kmもあるのに、多くの人たちがいても水路を通すのは大変だったと思いました。女神湖がもともと赤沼溜池という名前だったことは初めて知りました。観光地にするため名前を変えたということに驚きました。
- ・“蓼科の水” はとてもすごいと思いました。六川長三郎さんは亡くなってからも大切にされているということがわかりました。没後100年には神様となり、没後150年には「功勝霊社」としてお宮に祀られたと書いてあって、とてもすごいことをした人だということがよくわかりました。
- ・いくら大変な人生を送っていたとしても生きることをあきらめず、水路開削の許可を得たり、細谷新田や観音寺新田などの開発を始めたりと、たくさん挑戦をしていて「強い心を持っている方なんだなぁ…」と思いました。